

第9期第1回 神戸市立図書館協議会 議事次第

日時：令和6年2月5日（水）10時～11時30分

場所：中央図書館2号館4階 研修室(1・2)

1 開会

- 第9期第1回開催にあたって
 - ・第9期委員のご紹介
 - ・神戸市立中央図書館長 挨拶
 - ・事務局紹介

2 協議

- 会長、副会長の選出

3 報告

- 令和6年度事業概要
- 令和7年度事業計画（案）
 - ・郷土資料の収集（アーカイブ化）
 - ・神戸「本」の文化振興
 - ・新館の整備状況（垂水・北・三宮の各図書館）
 - ・中央図書館1階エントランス改修
 - ・電子書籍の充実・学校園との連携（GIGA 端末）

4 閉会

神戸市立図書館協議会 第9期委員名簿

委嘱期間：2024年9月12日～2026年9月11日（順不同・敬称略／☆は新任委員）

区分	氏名	役職等	第1回協議会
学識経験者	☆ 柏木 智子 (かしわぎ ともこ)	立命館大学産業社会学部教授	欠席予定
	齊藤 誠一 (さいとう せいいち)	大阪信愛学院大学教育学部教授	欠席予定
	☆ 原田 隆史 (はらだ たかし)	同志社大学免許資格課程センター教授	
学校教育関係者	安若 麻子 (やすわか あさこ)	神戸市立小学校教育実践研修図書館グループ代表（つつじが丘小学校校長）	
	西面 義彦 (さいめん よしひこ)	神戸市立中学校教育実践研修図書館グループ代表（鈴蘭台中学校校長）	欠席予定
社会教育関係者・家庭教育の向上に資する活動を行う者	小野 三恵 (おの みえ)	神戸市婦人団体協議会理事	
	尾野 三千代 (おの みちよ)	「おはなしたんぽぽ」代表	
	☆ 合田 正典 (ごうだ まさのり)	株式会社神戸新聞総合印刷 神戸新聞総合出版センター長 兼 出版部長	
市民代表	☆ 常泰 津也子 (じょうたい つやこ)	ネットモニターより選考	
	☆ 福田 麻文香 (ふくだ あやか)	ネットモニターより選考	欠席予定

図書館協議会関係規程

■ 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）抜粋

（図書館協議会）

第 14 条 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

第 15 条 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会（特定図書館に置く図書館協議会の委員にあつては、当該地方公共団体の長）が任命する。

第 16 条 図書館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他図書館協議会に関し必要な事項については、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

■ 図書館法施行規則（昭和 25 年文部省令第 27 号）抜粋

（図書館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準）

第 12 条 法第十六条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

■ 神戸市立図書館条例（昭和 25 年 10 月条例第 206 号）抜粋

（図書館協議会）

第 7 条 法第 14 条第 1 項の規定に基づき、図書館に神戸市立図書館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者その他市長が適当であると認める者の中から市長が委嘱する。

3 協議会は、10 人以内の委員で組織する。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

5 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

■ 神戸市立図書館条例施行規則 抜粋

(協議会の会長及び副会長)

第 23 条 条例第 7 条に規定する神戸市立図書館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。
- 3 会長及び副会長の任期は、委員としての在任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 会長は、協議会の議事その他の会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第 24 条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて会長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(関係職員の出席等)

第 25 条 会長は、会議において関係職員の説明又は資料の提出を求めることができる。

- 2 関係職員は、会議に出席して意見を述べるができる。

(施行細目の委任)

第 26 条 この規則の施行に関し必要な事項は、主管局長が定める。

令和7年度 神戸市立図書館事業計画（案）

1. 資料の充実
学び直しのための資料収集
◎ 郷土資料の収集
電子書籍の充実
新館整備のための資料収集
2. 読書推進
学習機会の提供、課題解決支援
◎ 読書推進のための関係機関との連携
新しい工夫を取り入れた企画
情報発信力の強化
3. 施設整備とデジタル化の推進
◎ 新館整備事業（垂水図書館、北図書館、三宮図書館）
サービスポイントの検討
自動化機器の利用促進
デジタル化の推進
4. 誰もが使いやすいサービス
◎ 利用しやすい環境の整備
利用支援
関係機関との連携によるサービスの提供
5. 子どもサービス
生涯にわたって読書を楽しむ習慣を育てるための取り組み
新しい工夫を取り入れた企画
ボランティア等との連携
◎ 学校園との連携（保育園、こども園含む）

◎は、別添資料により説明

郷土資料の収集

「神戸市立図書館資料収集基準」では、種類別基準の（５）郷土資料・行政資料として次のように基準を定めている。※基準は図書館ホームページで公開

- ① 神戸市に関する資料については、図書、新聞、雑誌、地図等は形態に係らず積極的に収集する。また、古書、私家版等の情報にも留意し、積極的な収集に努める。
- ② 阪神・淡路大震災に関する資料は、網羅的に収集する。
- ③ 郷土資料は、保存を前提として複本の収集に努める。
- ④ 住宅地図や統計書等は、神戸市の変遷がわかるよう網羅的に収集する。
- ⑤ 行政資料は、体系的に収集する。
- ⑥ 神戸市を理解するうえで必要な資料は、マイクロフィルム・映像資料・電子媒体資料等も選択的に収集する。
- ⑦ 神戸市を舞台にした小説等の文芸作品は網羅的に収集する。作品の一部に神戸市が取り上げられたものは、選択的に収集する。
- ⑧ 神戸市出身者及び在住者の著作物は、内容が神戸市に関するものでない場合は限定的に収集する。
- ⑨ 兵庫県全般に関わる資料は、幅広く収集する。また、兵庫県内の地域資料は選択的に収集する。
- ⑩ 地域図書館は、一般に流通している郷土資料を収集し、図書館設置区域に関する資料は積極的に収集する。

郷土資料は出版流通に乗らないものが多く、新刊書については、地元書店の店頭、新聞記事、出版社のチラシ、インターネットなどから出版情報を得、鋭意収集している。年に数回開かれる古書市でも、郷土に関する貴重な資料を購入している。※

また、図書館ホームページでは、神戸市や兵庫県に関する資料を刊行した際や、神戸市に関する古い資料をお持ちであれば寄贈いただけるよう呼び掛けている。

※令和５年度は３回の古書市で、『布引谷及天王谷水源地略図』〔書写年不明〕
『神戸市交通名所圖繪』（1930）等、約４０タイトルを購入

収集した郷土資料は、中央図書館２階「神戸ふるさと文庫」（約２３,０００冊）で閲覧利用できるほか、１階ふるさとコーナー、地域図書館でも所蔵しており、貸出できるものも、なるべく揃えるようにしている。

郷土資料のアーカイブ化

神戸市立図書館は、明治時代に神戸にあった私設の「桃木書院図書館」から引き継がれた、江戸時代後半から明治時代を中心とした神戸各地域の古地図・絵図などを所蔵している。これら資料の保存環境の問題と現物公開利用による劣化の兼ね合いから、平成14年頃からデジタル化の取り組みを行っている。

●「神戸市立中央図書館所蔵貴重資料デジタルアーカイブズ」

平成18年、文部科学省「社会教育活性化21世紀プラン」により、所蔵する貴重資料の一部を専門業者によりデジタル化。「神戸市立図書館デジタルアーカイブズ」として館内の専用端末とホームページで公開している。

- ・収録点数 館内端末：77種 576点 ホームページ：70種 572点
- ・主な収録資料「神戸市大水害絵巻物・スケッチ・写真」、「神戸覧古」、「海瀬舟行図」など

「神戸覧古」(1901)



「海瀬舟行図」(1680)



「神戸市大水害絵巻物」(昭和13年頃)

●神戸市電子図書館での独自資料登録

神戸市電子図書館には、商用コンテンツのほかに、図書館の広報紙や郷土資料等の独自資料のファイルを電子書籍形式に変換し、利用者に公開できる機能がある。現在、館報のほか、「ふるさと神戸コレクション」として、有馬温泉に関する貴重な古典籍をデジタル化し公開している。まだ点数は少ないが、文字資料を中心とした、親しみのあるテーマを選んで公開作業を進めていく予定である。



●令和7年度、デジタル化推進に向けて

製本作業の外注化により使用頻度が下がった館内の製本室を、現在、デジタル化の作業室として整備中である。高性能のデジタルカメラ、カメラスタンド、デジタルデータライト等機材を導入し、デジタル化作業を進めていく。

作製データの活用については、電子図書館を使った公開のほか、令和8年度中に開館予定の神戸市歴史公文書館のデジタルアーカイブズでも公開できるよう調整中である。また、「国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業」へのデータ提供による国立国会図書館デジタルコレクションでの公開も今後の検討課題としている。

デジタル化により、出納等による原資料の劣化防止、相互貸借の削減(利用者の費用負担軽減も)、貴重書籍の利活用促進などが期待できる。

神戸「本」の文化振興プロジェクト概要

1. 経緯・目的

- ・2024（令和6）年7月より開始。（2024年7月11日市長会見）
- ・「本」にまつわる外部人材の登用や、出版社・書店と行政の連携により、「本」と人の出会いの場をすることで、「本」を読む人、「本」を買う人を増やし、神戸の「本」文化を振興していく。
- ・文化交流課、中央図書館、小磯記念美術館、神戸文学館など各部署が連携し、市内の出版社や書店、私設図書館等を応援し、本と読者をつなげる取組みを行う。

2. 外部アドバイザーの登用

北田博充(きただ ひろみつ)氏 蔦屋書店梅田店店長／書肆汽水域（一人出版社）
委嘱期間：令和6年8月1日～令和7年3月31日（令和7年4月以降も更新予定）

（1）経歴

神戸市出身。関西大学卒業後、出版取次会社に入社。2013年に本、雑貨、カフェの複合店を立ち上げる。2016年にひとり出版社「書肆汽水域」を立ち上げる。同年カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)入社。2020年に、本・音楽・食が一体となった本屋フェス「二子玉川 本屋博」を企画・開催

<著書・共著書>

- ・2016年5月 著書『これからの本屋』（書肆汽水域）
- ・2016年11月 共著書『まだまだ知らない夢の本屋ガイド』（朝日出版社）
- ・2022年6月 共著書『本屋という仕事』（世界思想社）
- ・2024年2月 著書『本屋のミライとカタチ』（PHP 研究所）

（2）アドバイザー採用により期待される効果

- ・出版・書店業界と行政とのつながり、業界の横のつながりを創出
- ・若年層など「これからの読者」の開拓、市民の読書活動が活発化

3. ロゴ・キャッチフレーズ

この事業を一体感を持って進めるため、広報を行う際に活用するロゴ・キャッチフレーズを作成した。

（1）ロゴの基本デザイン

- ・港町神戸の色
青い海と、ポートタワーや神戸大橋の赤で表現。
- ・本の船で世界に
本を積み重ね船に見立てている。
- ・ロゴで使用している書体は、神戸市出身の書体デザイナー神田友美氏がデザインした書体「カッコウ」をロゴに合わせて調整したものの。



(2) ロゴの活用

この事業について市民に周知するため、まずはこのロゴ・キャッチフレーズが多くの市民の目に触れるよう、ロゴを広く活用していく。

- ・イベント開催時の広報（チラシ等）
- ・神戸市立図書館公式 X（旧 Twitter）アイコン
- ・職員がロゴマークの缶バッジを着用予定
- ・しおりを作成し、来館者へ無償配布予定
- ・自由に印刷ができるブックカバーのデータをホームページに掲載予定

4. 神戸「本」の文化振興関連事業

(1) 市内出版社紹介コーナーの設置

市内出版社が約2か月ごとに登場し会社紹介、本の展示・紹介文ポップ等でディスプレイを実施するとともに自社の本をPR。

場 所：中央図書館

- 内 容：①BL出版 2024年7月3日～9月27日
②出版ワークス 2024年10月1日～11月30日
③エピック 2024年12月3日～2025年1月31日
④神戸学院大学出版会 2025年2月～予定

(2) 「絵本の旅 - グリム、世界の昔話、ゆかりの作家と神戸の出版文化」展

神戸市兵庫区のBL出版（株）が刊行してきた数々の絵本から33作家の原画と資料計220点を展示期間中に、編集者トーク、ワークショップ、ストーリーテリング等のイベントを開催。こども本の森神戸、図書館でも関連絵本の展示、おはなし会を連携実施。

場 所：小磯記念美術館

日 時：2024年7月13日（土）～9月23日（月・祝）

(3) 神戸カルチャー市

神戸の出版、サブカルチャーなど様々な文化を飲食とともに体験できる「蚤の市」のようなカルチャーイベントを開催

場 所：神戸文学館

日 時：2024年10月13日（日）

(4) チャプターズ・森本萌乃×空蒼 トークショー&読書会

選書専門オンライン書店「Chapters bookstore」の店主・森本萌乃さんと、SNS 総フォロワー30万人の小説紹介インスタグラマー・空蒼さんを招き、トークショー・読書会を開催。また参加者には一人ひとりの悩みに寄り添った本の選書を実施。

場 所：中央図書館

日 時：2024年11月3日（日）

(5) 読書週間行事 トークセッション：「まちの本屋」のこれから

関西・神戸の7書店から経営者、店長等が登壇

コーディネーター：北田 博充 氏 梅田 蔦屋書店店長／書肆汽水域

第一部 「まちの本屋」のこれから

大垣書店（京都市）、正和堂書店（大阪市）、啓林堂書店（奈良県）

第二部 「神戸のまちの本屋」のこれから

1003（中央区）、自由港書店（須磨区）、ジュンク堂書店三宮店（中央区）

場 所：中央図書館

日 時：2024年11月10日（日）

5. 今後の予定

(1) 「KOBE BOOK FAIR」の開催

新刊に古本、ZINE などさまざまな本に触れられる機会として、市内外の多数の書店が一堂に会するイベントを不定期に開催予定。

その第一弾として、「KOBE BOOK FAIR & MARKET in 六甲アイランド」を開催する。

書店のみでなく飲食の出店、RIC コミュニティライブラリーによる親子向けイベントも予定している。

日 時：2025年3月22日（土）11時～17時

場 所：神戸ファッションマート1階アトリウムプラザ

実 施：（主催）六甲アイランドアートフェア実行委員会（共催）神戸市

(2) 書店講座の実施

書店の新規出店を目指す方を対象とした講座の開催。

(3) 神戸「本」の文化振興に関する SNS 発信

外部アドバイザーの北田氏による監修のもと、Instagram による情報発信を行う。

新館の整備状況等

(1) 垂水図書館（日向1丁目4 垂水駅前東広場）

「人と本のみなど～生涯の学びを支える情報拠点～」をコンセプトに整備する。新図書館では市民がゆっくと本に親しめるよう座席数を増やすなど、居心地のよい滞在型の図書館を目指す。

面積は約2,200㎡（現686㎡）、蔵書数は約12万冊（現8.8万冊）を予定している。

地下1階は駐輪場、1階は一般車両のロータリー、2階から4階までが新垂水図書館となる。

2階： 一般書コーナー

3階： 児童書コーナー

4階： セミナールームと屋上広場

【今後の予定】

令和5年度 設計、先行工事、文化財調査

令和5～7年度 文化財調査・工事

令和7年9月頃 完成・開館予定 ※工期の遅れがあり開館時期を変更



建物外観



2階（一般書フロア）



3階（児童書フロア）



4階（セミナールーム）

(2) 北図書館

旧北区役所跡地に整備する。地上4階・地下1階建ての2階部分が新北図書館となる。文化センターと児童館も併設される。

新北図書館の面積は約1,500㎡（共用部を含む。現835㎡）、蔵書数は約12万冊（現8.9万冊）を予定している。

【今後の予定】

令和4～5年度 新北文化センター・新北図書館等の設計、旧北区役所庁舎解体工事

令和6年度～ 建築工事

令和9年度中 完成・開館



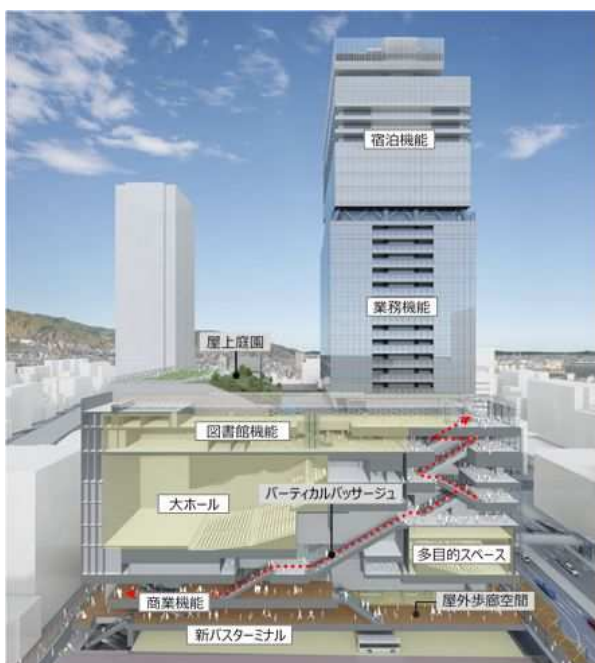
新北区文化センター外観 ※設計協議中のため今後変更となる可能性あり

(3) 三宮図書館

都心・三宮再整備事業の一環として、低層部にバスターミナルが整備される雲井通5丁目地区再開発ビル（地下3階、地上32階）の9階・10階に本移転する。文化・芸術ホール、商業施設・業務施設・バスターミナル等と複合的に再開発する。三宮図書館の整備コンセプトは「美しい知と情報のゲートウェイ」。面積は約2,000㎡（現1,000㎡）、蔵書数は11万冊（現7.2万冊）を予定。

【今後の予定】

令和4年度～	三宮図書館が仮移転した後、既存のビルの解体と新築工事（約5年間）
令和9年度	雲井通5丁目地区再開発ビルの工事完成
令和10年頃	開館



雲井通5丁目地区再開発ビル



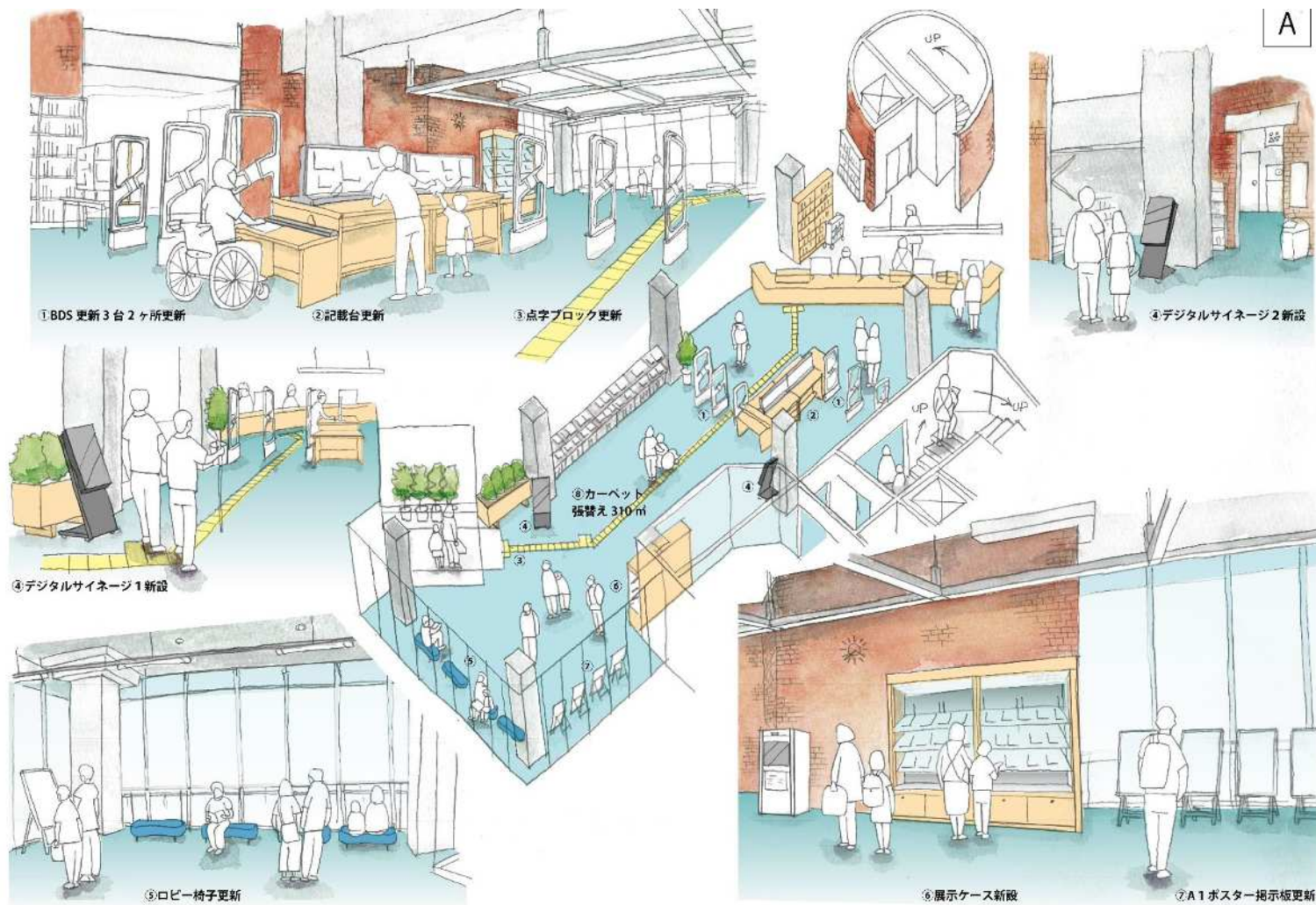
9階



10階

■ 中央図書館のエントランス改修案（予定）

- ・ カーペットやイスなどの家具類を更新し、明るく新しい図書館の顔に
- ・ 書架や什器の位置を見直し、利用者の動線を見通し良く
- ・ デジタルサイネージに情報発信を集約するとともに、魅力ある展示ケースを設けることで発信力を強化
- ・ 児童や車いす利用者の方にも使いやすい記載台を設置



○電子書籍の充実

※神戸市電子図書館の概要については、『事業概要』p.17 「(3) 神戸市電子図書館 (電子書籍サービス)」を参照

2025 年 1 月現在のコンテンツ数は、5,526 タイトル、うち読み上げ数は、2,608 タイトル、児童書数は、1,728 タイトル (うち 100 タイトルは「児童書読み放題パック」)。少しずつではあるが点数を増やしている。今後も魅力的なコンテンツを充実させ、電子図書館のさらなる利用促進を図りたい。

○学校園との連携

電子図書館は、神戸市立図書館の図書館カードをお持ちの方すべてが、特別な申請をする必要なく、ご利用いただけるサービスである。

そのため、夏休みなど長期休暇前には、学校と家庭をつなぐ教育委員会の連絡システム「すぐーる」を活用して図書館の利用案内を配信し、保護者に対し、児童生徒の図書館カード作成を促す PR を行っている。

また、小学校 2 年生の「せいかつ (町たんけん)」の授業の中で図書館見学を行う際に、希望があれば見学児童の図書館カードを作成している。

新たな取組みとして、現在、教育委員会との連携により、図書館カードを作成せずとも、GIGA スクール※の端末を利用して、児童・生徒全員が電子書籍を利用できるよう、GIGA 端末専用の神戸市電子図書館 ID とパスワード作成を検討中である。

※GIGA スクール構想

1 人 1 台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想。

Global and Innovation Gateway for ALL を略して「GIGA」。